東京都議会議員

早坂よしひろレポート

Hayasaka Report 2012.1

都政報告

発行
都議会自民党

緩和医療編

「人生の質」を向上させる緩和医療とは。

東日本大震災では、一瞬にして2万人もの「いのち」が失われた。大切な家族や友達に、別れを告げることすら出来ずにである。では、わが国の死因のトップである、がんで亡くなる方々は、大切な人たちに、きちんと別れを告げられているのだろうか。東京都における緩和医療の取組について報告する。

人が亡くなる場面に立ち会ったことはありますか？

早坂 本日は、わが国の緩和医療の第一人者である大津秀一先生に、お話しを伺います。よろしくお願いします。

大津 こちらこそ、よろしくお願いします。お正月に伺うのも何ですが、早坂さんはある日、末期がんだと宣告され、余命半年だとわかったらどうされますか？

早坂 私なら宣告を受けた直後こそショックで寝込むかもしれませんが、その後は家族みんなで海外旅行をして、美味しいものをたくさん食べ、最後は「ありがとう」と言って、ガクッと死にたいです。

大津 日頃の早坂さんに増して、どんどん活動的に過ごしたいということですね。ではもうひとつ伺いますが、早坂さんは、人がまさに亡くなってゆく場面に立ち会ったことはありますか？

早坂 テレビドラマでなら見たことがありますが、実際にはありません。ご遺体なら何度も見たことがありますけれども。

大津 そう、死の瞬間を見る機会は、普通の方ではほとんどありませんね。私はこれまで1000人以上の方の最期を見届けて参りましたが、早坂さんがおっしゃるように「ありがとう、そしてガクッ…」と亡くなった方は、実はひとりもいらっしゃいません。死の数時間前には、意識が低下するからです。また元気そうに見えている間でも、何を食べても砂を噛むように感じ、生きているのが辛いと訴える方もいらっしゃいます。

早坂 もう少し詳しくお願いします。

大津 そもそも運動能力自体が低下しますから、最期まで活発に動いて、やりたいことをやり遂げるような充実した終末期は、残念ですが現実には多くありませんね。また患者さんご本人だけでなく、それを見守るご家族も、それらが誰にも起こりうる自然の経過だと理解はできても、傍にいて苦しむことが、多々あります。

早坂 そうでしたか…。がんは痛く、苦しいのでしょうか？

大津 確かに、痛みを訴える方は多いです。7割くらいの方は痛みを訴えます。他にも身の置き所のないような身体のだるさなど、様々な苦痛があります。しかし、それぞれに対処法があり、例えば痛みに関しては、医療用麻薬などが大きな効果を発揮します。

早坂 それはブチュっと麻薬を注射して、感覚を麻痺させて、何も判らなくさせるのですか？

大津 とんでもありません。医療用麻薬は、患者さんの頭をおかしくなどせず、意識は全く変えずに、痛みだけを取るのです。そもそも注射ではなく、現在はほとんどが飲み薬で、貼り薬もあるんですよ。

理想の逝き方をサポートするのが緩和医療です。

早坂 では医療用麻薬は、ごく一般的に使用されているのですね。

大津 はい、そうあるべきです。しかしわが国での使用量は、諸外国と比較して、決して多くはありません。医療用麻薬に対する誤った先入観がまだまだあるからでしょう。痛みを取り苦痛を和らげ、患者さんの「人生の質」を向上させる、『緩和医療』に対する理解を、今後さらに深めるべきです。但し、これはがんを治すものではありません。

早坂 治る見込みのあるがんなら、もちろん病気を治す医療を受けたいですが、もう治らないのなら、せめて痛みやその他の苦痛だけは取って、残された時間を最大限に有意義に過ごしたいと思います。

大津 がんの特徴は、余命数カ月程度から、急激に体力が衰えることです。まだやり残したことがあると思うなら、すぐに取りかかるべきだし、そのためには緩和医療の助けが必要ですね。きちんと準備すれば、早坂さんの思う逝き方に近づけることは可能です。

早坂 「緩和医療」と「安楽死」は違いますか？

大津 はい、違います。安楽死は苦痛から逃れるために、積極的に死を選択するものです。緩和医療は命を縮めず、苦痛のみを取り除くのが特長です。

〈裏面〉

大津 秀一 × 早坂 よしひろ

大津　秀一（おおつ　しゅういち）
東邦大学大森病院所属、緩和医療医。
テレビ、論壇などで広く活躍。昭和51年、茨城県水戸市生まれ（35才）。

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区上荻1-11-5-505　☎03(3220)0411　hello@tokyo-hayasaka.com

都政報告 Hayasaka Report 2012.1

都立駒込病院の緩和ケア病棟で、大和田看護長さんからお話を伺う。
背景は終末期患者のためのヒーリングアート。

東京都議会議員

早坂よしひろレポート

発行
都議会自民党

医療も政治も「いのち」を守るという点で共通しています。

〈表面より〉

緩和医療の専門医の数が少なすぎます。

早坂 緩和医療はどこでも受けられるのでしょうか？

大津 緩和医療の専門医は、全国でわずか24人に過ぎません。緩和医療を教えられる経験豊富な医療スタッフが、そもそも少ないのです。しかしその重要性は認識されてきていますので、今後は増えていくでしょう。

早坂 大津先生のご著書である『余命半年』を拝読しました。人生の締めくくりの半年間を、激痛に耐え、また人工呼吸器などの機械がたくさん体に取り付けられていくなかで、少しでも延命したいか。それともそれら無しで、心豊かな半年間を過ごしたいか。延命治療が、かくも痛みと苦しみを伴うものだとは知りませんでした。私自身、人生観の変わるような衝撃を受け、先生のご著書全てを読破し、緩和医療の大切さを痛感しました。

大津 いったん人工呼吸器が取り付けられると、それを取り外すのは非常に困難ですね。といいますのも、それを外せば患者さんの呼吸が止まってしまいますから、医師も家族も、自らが手を下す結果となることを恐れます。もはや言葉を話せない患者さん自身が、実は人工呼吸器を取り除いてほしいと、どんなに願っていたとしてもです。延命治療を100％否定するものではありません。しかしそれがどんなものであるかを、きちんと理解した上で判断すべきでしょう。

早坂 毎年お正月、お線香を上げにわが家に上京していた高齢の叔父が、ある年、顔を見せないことがありました。電話に出ないことはたまにありましたので、どうしたのかなと思いつつもそのままにしておいたところ、半年後、自宅で孤独死しているのがわかりました。時間が経過しすぎて、もはや死因すらわかりませんでした。とても愉快だった叔父が、最期の瞬間をたったひとりで、どう過ごしたのだろうか。人の最期の姿について、それ以来ずっと考え続けています。

限られた時間を有効に活用できる人は、決して多くありません。

大津 私は医師になりたての頃は、救急の現場にもおりました。自分より若い人が、ある日突然、急病で亡くなってしまう。誰にも別れを告げることなくです。もっと伝えたいこともあったろうと思いました。一方でがんは、別れを告げる時間を持ちうる。しかしその限られた時間を有効に活用できる人は、決して多くありません。そのことに気が付いた時、人生最後の大切な時間を思い通りに過ごすことの重要性と、それを医療が支えるべきだとの使命を痛感したのです。

早坂 末期がん患者の終末期を描いた映画『エンディングノート』が昨年、大ヒットするなど、終末期医療に対する国民の関心が高まっていますね。

大津 がんは今日、わが国の死因のトップで、国民の3割が、がんで亡くなっています。緩和医療も含めたがん対策の充実には、医療現場だけでなく、政治の力が必要です。昨年9月の都議会本会議で早坂さんが取りあげた、石原知事に対する「緩和医療」の質問は、緩和医療の重要性を訴えた、貴重なものでした。「政治家の中にも、こうやって緩和医療の普及に熱心に取り組まれている人がいるんですよ」と、皆さんに紹介しています。

早坂 それは、光栄です。医療も政治も「いのち」を守るという点で、共通していますね。

大津 私もそう思います。中国の古典に「上医は国を医（いや）し、中医は民を医し、下医は病を医す」とあります。病を治すにとどまらず、人そのものを癒し、国を救うのが優れた医の担い手だという意味です。私たちが患者さんやご家族と向き合うのと同じように、早坂さんは大勢の都民の皆さんと向き合っているのだろうと思います。早坂さん、東京のため、今年も大いに活躍してください。

早坂 もちろんです！本日はどうもありがとうございました。

ミスター防災
早坂よしひろ

プロフィール

- ●昭和43年 荻窪の東京衛生病院生まれ（43才）
- ●西田幼・西田小・松渓中卒業、大検合格
- ●立教大学法学部（北岡伸一ゼミ）卒業
- ●働きながら明治大学公共政策大学院（青山佾ゼミ）修了
- ●防災情報機構ＮＰＯ法人事務局次長として全国講演
- ●平成17年 東京都議会議員に初当選（現在２期目）
- ●東京都議会防災議連幹事、日本防災士会東京都支部長
- ●明治大学客員研究員

＜災害調査＞
米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震　他、国内外多数
東日本大震災では発災当日に宮城県入りし、支援活動を行う。

写真は都立駒込病院の緩和ケア病棟

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区上荻1-11-5-505　☎03(3220)0411　hello@tokyo-hayasaka.com